

授業概要

科目名		理学療法技術論Ⅱ（中枢神経疾患）			授業の種類	演習	講師名		
授業回数	30回	時間数	60時間	（2単位）	配当学年・時期	理学療法士科3年		必修・選択	必修
〔授業の目的・ねらい〕									
・臨床現場で片麻痺患者を担当したときに,自信を持って理学療法が行えるようにイメージを形成します。									
・中枢疾患の理学療法の中で、失調症とパーキンソン病の病態の特徴をとらえ、治療に結びつけることと、臨床でよく経験する協調運動障害に対する病態の学習と、理学療法の展開を学習する機会とする。									
〔授業全体の内容の概要〕									
・脳卒中片麻痺の急性期、回復期に焦点を絞って講義します。症状は多種多様であるため、スライドやビデオを多用するとともに、多くの臨床所見を提示しながら片麻痺の理学療法を理解していきます。									
・パーキンソン病のグレード別の進行にあわせた理学療法の展開を学ぶ。また、失調症の特徴や理学療法の方法を学ぶ。									
〔講師の実務経験〕									
〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕									
・症状・障害を理解し、リスク管理を行いながら評価から治療までの一連のプロセスを実施できるようになる。									
・パーキンソン病のグレード別の進行にあわせた理学療法のプログラムの立て方と目標設定や治療方法を知る。また、失調症の特徴と治療の展開方法を学ぶ。									
回数	講義内容								
1	パーキンソン病の評価と病態								
2	パーキンソン病の評価と病態								
3	パーキンソン病の理学療法								
4	パーキンソン病の理学療法								
5	小脳の機能解剖								
6	小脳の症状								
7	失調の治療								
8	失調のケーススタディ								
9	脊髄損傷について								
10	脊髄損傷について								
11	脊髄損傷について								
12	脊髄損傷について								
13	脊髄損傷について								
14	脊髄損傷の評価と実技								
15	脊髄損傷のまとめ								
16	脳血管障害の理学療法 概論①								
17	脳血管障害の理学療法 概論②								
18	脳の機能解剖								
19	画像所見								
20	摂食嚥下障害								
21	高次脳機能障害 半側空間無視 pusher								
22	急性期の理学療法 リスク管理								
23	回復期の理学療法 姿勢制御								
24	姿勢制御 実技								
25	姿勢 動作観察と分析（臥位・座位・立位）								
26	機能評価法								
27	姿勢動作観察分析 立ち上がり 歩行								
28	脳卒中の装具療法								
29	脳卒中の装具療法 実技								
30	脳卒中の理学療法 まとめ								
	定期筆記試験								
【 準備学習・時間外学習 】									
【 使用テキスト 】									
書籍名					著者名		出版社		
標準理学療法学・作業療法学 専門分野 神経理学療法学 第2版					吉雄雅春		医学書院		
病気が見えるVOL,7脳・神経					尾上尚志		メディックメディア		
【 単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など） 】									
筆記試験にて評価する									